

平成20年度 兵庫県立小野高等学校 学校評価報告書

1 中期的な学校運営の目標・方針

学校教育目標	理想の人間像を追求し、生きる力と学力を身につけさせ、一人一人の進路を達成するため、次の4点を教育目標とする。 校風である明、浄、直（蜻蛉魂）による校風の発揚 進路目標達成に向けての学力養成 国際的視野と他を思いやる心の育成 健康な身体とたくましい精神の育成
	重点目標 学校のレベルアップ、生徒の十分な育成を期するには、教職員の資質の向上、意識の変革が不可欠である。熱意ある教育実践から生まれる真摯なる研修の積み重ねにより、生徒育成に燃える教員集団づくりを図る。 普通科・科学総合コース・商業科・国際経済科を持つ総合制高校の特色を生かす教育計画の展開に創意工夫をする。 生徒の進路目標の達成を目指して主体的に学び続ける力を身につけるために学年・学級経営を強化し、一人一人の能力と個性を伸ばしながら自己実現を図る。 学校・家庭・地域が連携を深め、学校評議員制度や評価システムを活用する等、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを一層推進する。 地域の幼児児童生徒、高齢者、障害を有する生徒との交流やボランティア活動等を通して、福祉の心や共に生きる心を育てる。

2 年度の重点目標

重点目標	学校のレベルアップ、生徒の十分な育成を期するには、教職員の資質の向上、意識の変革が不可欠である。熱意ある教育実践から生まれる真摯なる研修の積み重ねにより、生徒育成に燃える教員集団づくりを図る。 普通科・科学総合コース・商業科・国際経済科を持つ総合制高校の特色を生かす教育計画の展開に創意工夫をする。 生徒の進路目標の達成を目指して主体的に学び続ける力を身につけるために学年・学級経営を強化し、一人一人の能力と個性を伸ばしながら自己実現を図る。 学校・家庭・地域が連携を深め、学校評議員制度や評価システムを活用する等、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを一層推進する。 地域の幼児児童生徒、高齢者、障害を有する生徒との交流やボランティア活動等を通して、福祉の心や共に生きる心を育てる。
------	--

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

学校関係者評価	生徒、保護者、教員、3者のアンケートをデータ化した点を評価したい。報告書の様式は特に決まっていはいない。本校の評価の仕方は良いと思う。本校の様式について、トップの重点目標は非常にはっきりしていているのだが、目標管理的評価をすればこの5点についての評価をすれば良いのである。重点目標についての評価をすれば、改善点が明確化される。学校運営全般の評価項目をひとつにすることは少し無理があるように思う。項目に入らないような全体的な意見を書く欄もあって良い。評価方法そのものについての意見を述べる欄もあれば良い。しかし、全体的には大きな進歩（数値目標も入っている）があったと感じている。
---------	--

5 総合的な学校関係者評価

総合的な学校関係者評価	伝統を支えられ、それを生かしている学校だと思う。もし余力があれば北播のトップ校としての特徴をもっと出してほしい。それは進学実績がもしれない。数字がもしれない。ただ、学校の実情の上に立って考えることが基礎になると考えている。学校評議員には専門知識を持っている人の参加も大変有用である。ある程度の数値化が必要であるが、極端にならないよう留意し、先生方全体で納得できる評価にする必要がある。この評価はよくまとめていると思う。
-------------	---

3 学校自己評価 A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

領域	評価の観点	評価項目	実践目標・取組内容	達成状況	部署	学校の取り組み状況・改善方策
学校運営	学校運営全般	生徒や職員が生き生き活動できる学校づくり 教職員が働きがいのある職場づくり 地域や保護者から信頼される学校づくり	生徒の自主性をはくくみ、授業内容を精選・工夫・改善する中で確かな学力や豊かな人間性をはくくむ。危機管理意識を高め確かな安全を確保するため学校を点検し教育相談活動を充実する。 教職員の健康に留意し、努力を認め合い励まし合う明るい働きがいのある職場づくりを目指す。（衛生委員会年6回） 課題を整理して学校としてのビジョンを明確にし、各部・各学年の横の連携を密にし学校教育目標の共通理解や教職員の協働体制による学校としての組織力の向上をはかり、効果的な魅力ある校務運営を目指す。 学校評議員制度や学校評価活動を活用した、開かれた学校づくりを一層推進する。（学校評議員会年3回）	B	総務	【取り組みと成果】 質問1「学校の教育方針や学年・学級の指導方針についてわかりやすく説明されている」の質問では、生徒・保護者・教員ともに8割が肯定的である。特に保護者についてはPTA総会や学年集会等を通じて学校の指導方針について周知を図っていることが背景にあると思われる。 【今後の取り組みと改善策】 今後一層の充実に向けて生徒や教員についても共通理解を図っていきたい。
		家庭・地域および諸機関と連携した危機管理体制の推進と学びよい環境づくり	学校防災体制の充実を図り、安全な学校づくりを推進する。（危機管理ワークショップ年2回） 教職員、生徒の危機対応意識の向上を図り、緊急時に対応できる実践的態度や能力を育成する。 学校の美化保全に努め、よりよい環境の整備と創造に向けた生徒の態度を育成する。 校内各部署やPTA、同窓会との連携を密にし、円滑な学校運営に努める。	B	総務	【取り組みと成果】 危機管理意識の定着を目的に職員のワークショップを2回実施し、一定の成果をあげた。緊急連絡網についてもメール使用実験が進み、次年度は実用化のめどが立った。美化保全については生徒の自主的な活動を目指して取り組みをスタートさせることが出来た。 【今後の取り組みと改善策】 次年度は清掃活動における具体的な成果顕れるように取り組んでいきたい。
	開かれた学校づくり	家庭や地域との連携及び情報発信	校外と連携した各行事の企画・実施を通して、生徒の豊かな人間性の向上に努める。（行事検討委員会年3回） 地域に信頼され、また開かれた学校づくりを推進するため、学校公開・オープンハイスクールの検討改善を行う。（オープンスクール年6回）（オープンハイスクール年2回3日） 学校行事等の内容について、ホームページを活用した広報を推進する。	B	総務	【取り組みと成果】 行事検討委員会を3回開催し、主要な行事についての見直しを行った。ホームページも情報担当によって新しい項目やさまざまな工夫を入れ改善が行われた。地域貢献事業においても各クラブの自主的な取り組みが増加し、参加する生徒が増えた。 【今後の取り組みと改善策】 授業公開を伴う学校公開については、その回数と方法について更に検討が必要である。他校の有意義な取り組みも参考にして、生徒の意識を高める地域貢献を進めていきたい。
	教職員の資質の向上	ICTの資質の向上	教員のICTに関する資質の向上に努める。	B	情報図書	【取り組みと成果】 校内のネットワークの整備が進み、パソコン教室も新機種が導入される。メール連絡網の推進・ホームページの工夫も行った。支援モデル事業の指定校としてICT支援員を活用するなど、本校のICTの資質の向上に努めている。 【今後の取り組みと改善策】 更新の情報リテラシーの向上が今後の課題である。このため、コンピュータ教室の更新を活用して生徒と教員の情報スキルアップを推進したい。
学校運営	教職員の資質の向上	指導力の向上	「分かる授業」「実力がつく授業」をするために、授業を公開し、反省会等を行い、教員資質の向上に努める。（オープンスクール年2回3日）・（オープンスクール年6回）	B	学力向上	【取り組みと成果】 授業の工夫について学年が上がると肯定的評価が多くなる。本校の負担を掛けずに授業スタイルに対応していくのだから。ただ、教員の思いと生徒・保護者の感じ方にはやや差異が見られるので、より効果的な授業が必要とされる。オープンスクール・オープンハイスクール・研究授業等の公開授業の実施と研究反省会を実施している。 生徒の理解度把握に定期考査だけでなく細かく小テスト等を実施している。 【今後の取り組みと改善策】 生徒の多様性をふまえて小人数授業を実施しているが、今後はより確かな学力の定着に向けた方法を模索したい。
	生徒指導	生徒の自主・自立の精神を育む指導の工夫	生活三原則を徹底させる。 ・全校生徒挨拶運動を実施する。（各学期に実施） ・生徒会が中心となり、清掃徹底に向けての活動を実施する。 規範意識の向上を図る。 ・年3回のマナーアップ運動を実施する。 学校行事、部活動等の活性化を図る。 ・全校生が一人となり取り組む学校行事の改善と充実を努める。 ・定期的な部長会議を持ち、意識の向上を図る。 ・生徒会が中心となり、クリーンキャンペーンやボランティア活動を行う。 課題のある生徒に対しては家庭訪問等を行い、指導の充実を図る。 生徒の実態を踏まえた規程の見直しを実施する。	A	生徒指導	【取り組みと成果】 落ち着いた学習環境を確保し、自主性を育てるために、今年度は、生活三原則の中の「挨拶」に対する意識の高揚をめざして「全校生挨拶運動」を実施した初めての試みでもあり生徒への連絡方法等課題も見出すことができたが、来年度も継続し、より充実した取り組みにしたい。 学校行事は生徒会を中心に充実した取り組みが出来た。 部活動は、入部率が86%である。全国優勝を始め多くの部が成果をあげた。まさに「文武両道」の精神が伝統として受け継がれている成果と思われる。 生徒会主催のクリーンキャンペーンは、2度実施した。2回目には約150名（生徒、保護者、職員）の参加があり盛大に実施できたことは、地域貢献という点からも大きな成果であった。 【今後の取り組みと改善策】 来年度は地元自治会と連携し、より地域と密着した活動にしたい。

学校運営	進路指導	進路意識と職業観・勤労観の育成 主体的な進路選択能力の育成	3年間を見通し、生徒の進路希望を実現させるための組織を編成する。 生徒の実態に即した行事を実施し、職業観・勤労意欲および進路意識の向上をはかる。 主体的な進路選択・自己実現を支援する。 進路指導に必要な資料を精選し、情報を提供する。	B	進路指導	【取り組みと成果】 面接等による進路指導のあり方には生徒・保護者から概ね満足との評価を得ており、教員の指導も十分と思われ、今後も指導体制を維持するのがよい。ただ、学年が進行するにつれて肯定的な評価ポイントが若干、減っていることがうかがえるが、生徒一人一人の進路実現に向けた進路指導体制の充実が不可欠である。 【今後の取り組みと改善策】 3年生には進路資料室もよく活用されているが、低学年にもっと進路指導の適切な情報を提供することを通して利用の活性化に努めたい。
	保健安全	生徒の内面の理解を図る 指導の工夫	自主的な健康管理習慣を身につけさせる。 健康診断・健康相談等を通じて、病気の予防と早期発見に努める。 保健安全関係の施設・設備・器具の充実と環境整備に努め、保健安全指導を図る。 家庭・地域・関係機関と連携を図り、エイズ教育・薬物乱用防止教育・喫煙防止教育を推進する。 教育相談を実施し、生徒・保護者の精神的不安や悩みの軽減及び解消を図る。(教育相談年11回)	B	保健	【取り組みと成果】 4月初めからの健康診断や検査において、早期に生徒の身体の状態を把握している。また、大きな学校行事前には、必ず健康調査や相談を実施して、生徒の健康・安全面の把握に努めた。 1年生の保健委員らによる「保健だより」の発行より、全校生や保護者に健康・安全の意識を持たせた。 教育相談の実施により生徒とその保護者の悩みの解決に役立つことができた。 【今後の取り組みと改善策】 来年度は保健関係の生徒向けの講演会等を実施出来ればと考えている。
	1学年		第1学年として高校生活の基礎となる生活習慣を確立し、生活・学習の基盤としての「生活3原則」を徹底させる。 他者を大切に思い人のため役立つとうとする心、失敗を恐れず挑戦し続け最後まで粘り強く取り組む姿勢を養い、自己啓発ができる集団を目指す。 基礎学力の養成のため次のことを重点的に指導する。 予習・授業・復習の学習サイクルの確立 平日3時間の家庭学習時間の確保 自己理解、他者理解の深化 社会に広く目を向けさせる進路学習を実施し進路意識の高揚 特別活動を通じ、健全な身体と健全な心を育成する。	B	1年	【取り組みと成果】 小野高生としての生活や学習スタイルは概ね確立されているといえる。家庭学習の時間が不十分な生徒が多く、生活の見直しや進路目標を明確に持たせることで、学習に向かう意識を向上させた。 【今後の取り組みと改善策】 部活動や生徒会行事には主体的に取り組んではいるが、自分たちが中心となって作り上げ動かしていくという意識を育てることで、学校行事に対する満足度をさらに高めたい。授業の工夫と、生徒を多方面からみよ意識が必要である。
2学年		明るく、自ら考え、へこたれない学年を基本方針として 中堅学年としての意識を持ち、基礎から応用力への育成と、進路目標の実現に向けた学力の充実を図る。 何事にも情熱をもって取り組む態度を育てる。 調和の取れたバランス感覚豊かな、自主的にリーダーとなれる人材の育成に努める。 各種の特別活動を通じての、健全な身体と健全な心を育てる。	B	2年	【取り組みと成果】 生徒会活動の中心学年となり、学校行事には学年一丸となって取り組み、大きな成果を上げることができた。 【今後の取り組みと改善策】 今後は進路指導の実現に向けて第一志望届に対する取り組みを通して進路目標を決定し、今後その実現に向けて努力したい。	
3学年		志を高く持ち、粘り続ける集団を基本方針として 最高学年としての自覚や、リーダーとしての資質を育成する。 進路実現のために次の点を重点に取り組む。 第一志望を目標に努力し、最後まで粘り続ける。 授業を基本に、基礎基本の定着を徹底させる。 補習等を利用し、発展的な学力を身につけさせる。 生活3原則を実践し、生活や学習において自己を律する姿勢を育成する。 社会や人のために貢献する姿勢を育てる。	B	3年	【取り組みと成果】 晴れ祭や体育大会などの学校行事に全力で取り組み、最高学年として成果を示すことが出来た。進路や生活についてのアンケート調査を定期的に行い、生徒の状況を把握することで授業や補習、進路指導の計画に活かした。 授業を基本にし、後半は、補習を計画的に行い、生徒の意識を高めることに努めた。 【今後の取り組みと改善策】 日頃の学習に連れ、将来を見据え社会のために貢献する姿勢を育てる指導に課題が残ったが、今回の反省を今後の指導で改善していきたい。	
学校運営	自ら学び自ら考える力の育成	学びの力の育成	分かる授業・効果的な授業のための時間割編成・特別教室配置をおこなう。 生徒の実態を踏まえた教育課程編成、学級編成、教務規定における課題に取り組む。 効果的な習熟度別学習・少人数指導の方法を研究、実施する。 授業時数を確保するため、自習をさせない工夫をする。	B	教務	【取り組みと成果】 効果的な習熟度別学習・少人数指導に即した時間割編成及び特別教室配置を実施したが、時間割が複雑になりすぎたため、時間割変更が行いにくくなるという課題も生じた。 【今後の取り組みと改善策】 来年度は、2年次3年次におけるクラス数の弾力化を実施し(各学年1クラス増)それに基づく時間割課題を解決するために、来年度は少人数学級の実施を基本とした時間割編成を行う予定である。
	商業・国際経済科	商業・国際経済科の取り組み	校内委員会の積極的な運営及び広報活動の積極的な導入により学校内外からの科の理解を促進する。 地域社会とのパートナーシップの確立を図り、地域社会の諸資産を有効に活用した地域活性化を促進する。 保護者や卒業生との連携を強化し、多方面から応援していただける協力体制を確保する。 授業の質向上と情報発信基地としての役割を果たし、地域社会から必要とされる教育機関を目指す。 A「課題研究」の位置づけ；研究発表会や論文集の作成により研究成果を地域社会に還元して行く。(課題研究発表会年1回実施・課題研究論文集年1回発行) B「ひよここの達人」招聘事業や2008特別講義を通じてバランスの取れた生徒の育成を目指す。 C 授業の質の向上を目指し生徒の多様化に対応する。 行事と教育課程の連携強化と体系化を推進する。 商業科・国際経済科の教育課程を検証し、学習指導要領改訂後の教育課程の創造を目指す取り組みを始める。	B	商業・国際経済科	【取り組みと成果】 委員会を3回開催し担任・学年・部との意思疎通が図れた。学科行事について新聞に掲載されたり、課題研究発表会などで地域への情報の発信ができた。インターンシップ・販売実習・卒業生を囲む会などでPTA役員・保護者・卒業生等の協力で経験からの学びを実践できた。 【今後の取り組みと改善策】 インターンシップが学校設定科目として来年度より実施できるよう工夫している。他科の生徒保護者への周知が課題である。
課題教育	科学総合コース	科学総合コースの取り組み	教育課程についての研究、検討を行う。 コースセミナー、「探究」セミナーについて、学習意欲や進路意識の高揚と総合的な学習「探究」の学習活動を充実させるために、情報の発信・受信を充実させ、内容、回数等を検討し、精選する。 総合的な学習「探究」を、生徒がより積極的に学習活動を行うために、年間指導計画の研究を行う。また、研究テーマの蓄積と幅を広げるための研究を行う。(探究発表会年1回実施・探究論文集年1回発行) ホームページ、案内冊子等を充実させ、様々な機会に、地域(中学生やその保護者)に対して科学総合コースの目標や現状を説明し、正しい情報を発信する。	B	科学総合	【取り組みと成果】 質問18「科学総合コースは特色ある教育活動を行っていると思う」の質問に対して、教員は86%が肯定している。 コースセミナーの講師を充実させ、授業の中でICT利用・実験・討論を行い幅広い分野の中で創造力や想像力等の豊かな感性を培っている。 現在、探究の年間指導計画を見直し、探究テーマの蓄積を行い探究論文集の充実をはかり探究発表会を開催している。 【今後の取り組みと改善策】 今後は更なる地域への情報の発信が必要である。
	人権教育	豊かな人権意識の育成	各学年の学期ごとの生き方ホームルーム事前研修会において、各班別に内容を検討し活発な意見交換をした上で、生き方ホームルームのより一層の充実を図る。 全校で人権映画・講演会を実施したり、生徒に対してボランティア活動や男女共同参画社会の実現に向けた講演会への積極的な参加を募り、人権問題への啓蒙を図る。 学年末に各学年の生き方ホームルームの実践内容を総括し、職員研修会で取り組みの共有化をはかり教師自身の資質を高める。	B	人権	【取り組みと成果】 質問19「本校の人権教育は適切に実施されていると思う」の質問に対しては、教員の60%は肯定しているが、29%は「どちらとも言えない」といっている。 各学年のホームルーム事前研修で教職員の間で共通理解を図り、研修テーマを学んだ人権映画「めぐみ」の鑑賞で充実した研修が出来た。三学期には1年間の各学年の指導実践報告会を中心に職員研修会を行っている。 【今後の取り組みと改善策】 今後も幅広い内容を取り入れた人権研修会を行い、地域の人材を生かし、交流する中で生徒の課題に対応できるように工夫したいと考えている。

課題教育	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	外国の言語や文化、風俗習慣などに対する関心を高め、世界には様々な価値観が存在することを認識する。また自国の文化や伝統を再認識し、視野を広げ、柔軟かつ公正な判断力を養う。 国際化の進展に対応し、国際社会の中で生きるために必要な資質を養う観点から、コミュニケーション能力の育成や国際理解の基礎を培う。	B	国際理解	【取り組みと成果】 姉妹校との交流、訪問使節団との交流、JICA訪問等の国際経済科の取り組みなど、生徒の希望にあわせて国際交流においては一定の成果をあげることが出来た。しかし、学校全体での成果の共有や海外引率教師の確保等における課題も残されている。 【今後の取り組みと改善策】 今後、生徒向けの広報を強化する必要がある。
	情報・図書教育	情報教育・および読書活動の推進	情報を主体的に収集、選択、活用できる能力を育成する。 読書の習慣を身につけ、自ら学ぶ姿勢を体得し、豊かな人間性を養わせる。	C	情報図書	【取り組みと成果】 図書館の利用頻度は高いが、自習室としての活用が主になり、図書の貸し出し冊数は伸びていない。 教科「情報」「探究」の発表などで情報を活用する能力が育成されている。 【今後の取り組みと改善策】 読書指導については、一年次から学年とのより密な連携が必要である。人権教育とリンクした情報モラル教育が必要である。 図書館でのインターネット利用を考えていきたい。

横断的評価項目

A 目標以上の成果をあげた B 目標を達成した C 目標に向けてやや努力を要す D 目標に向けて一層の努力を要す

項目	現状と課題	評価	学校の取り組み状況・改善方策
保護者が必要とする情報を適切に伝達出来ているか	<ul style="list-style-type: none"> ホームページアクセスへのアクセス回数を高める工夫がされている。災害対応情報等の組み入れなどがある。 学年通信やPTA総会資料、担任の個性を生かした学級通信、各セクションからの文書により情報提供量は適切である。 	B	<p>【取り組みと成果】 質問12「学校公開や学校のホームページ、学校便り等（学年通信・保健便り）を通して、情報公開が適切に行われていると思う」という質問に対して教員の73%が肯定した。保護者は「学校のホームページや学校だより等（学年通信・保健だより）を通して学校の様子がうかがえると思う」の質問に対して66%が肯定的で「どちらとも言えない」が25%であった。生徒は「学校配付資料（通知表・学年通信・保健だより等）を家庭に届け、学校のことを家庭でよく話をしていると思う」の質問に対して54%が肯定し、「どちらとも言えない」が28%、否定的な意見も18%有り、半数弱の生徒が家庭への連絡や会話がやや少ないと感じているようである。</p> <p>【今後の取り組みと改善策】 今後メール連絡網の推進・ホームページの活用を通して学校から家庭への文書が確実に届けられるよう工夫したい。</p>
保護者や生徒からの情報伝達およびその対応は適切に行われているか	<ul style="list-style-type: none"> 外部からの電話等への対応は丁寧に行われている。 来校者への対応は適切である。 	B	<p>【取り組みと成果】 質問15「事務職員の窓口の対応や電話の対応は適切であると思う」の質問に対して保護者の80%が肯定している。質問5「家庭からの質問や相談に対する教職員の対応は丁寧であると思う」の質問に対して保護者は72%が肯定し、教職員も83%が肯定している。概ねできていると解釈できる。</p> <p>【今後の取り組みと改善策】 今後更なる対応の改善を図りたい。</p>
地域との交流が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開（蜻蛉祭、体育大会・コーラス大会、課題研究発表会）、クリーンアップキャンペーン、文化部校外展示等、現状ではバランスの取れた状況である。 部活動等の一環として地域の小学校と交流している。 野球部・サッカー部・ダンス部・郷中クラブ生物・ふれあい育児体験・看護体験・進路体験学習・インターンシップ・蜻蛉祭地元企業商品販売実習他 校外行事の見直し 行事検討委員会3回 開かれた学校づくり オープンハイスクール2回・学校公開6回地域貢献事業 ホームページ工夫 	B	<p>【取り組みと成果】 質問7「蜻蛉祭や体育大会などの学校行事は満足できるものが多いと思う」という質問に対して、肯定した割合は、生徒78%・保護者89%・教員93%であった。概ね良いと解釈できる。 質問8「小野高校は地域との連携やつながりを大切にした取り組みを進めていると思う」の質問に対して、教員の88%が肯定しているが、生徒の肯定した割合は、55%・保護者は69%であった。その中で商業科・国際経済科の生徒の71%が肯定している。商業科・国際経済科が全員参加で実施しているインターンシップや販売実習の成果が考えられる。</p> <p>【今後の取り組みと改善策】 今後いろんなところで行われている活動を全校生徒に知らせ広めていきたい。</p>
学校評価システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の改善が行われている。（横断的項目を追加し、委員会で評価を協議） 学校評価委員会で議論が活発に行われ活性化している。 外部評価の導入を行っている。 	B	<p>【取り組みと成果】 学校評価委員会を年7回開催し、議論を重ねる中で学校の課題を共有し、学校評議員会のご意見を会議に反映させ、新たな改善策を講じることが出来たことは良かった。その結果、学校評価アンケート項目を工夫し新たな視点で学校全体を評価できた。その成果の一つとして携帯連絡網が動き出した。</p> <p>【今後の取り組みと改善策】 学校関係者評価の充実のため、評価基準や回数、構成員の見直し等を進めていきたい。</p>